

第31回 埼玉県写真サロンなど各事業の推進について

委員長 深井勝己

全日写連埼玉県本部では、6月7日(土)の委員会において、実行委員から各担当事業の実施内容と詳しい説明がありました。会員の皆様には、全日写連3大写真コンテストや様々な事業にて既に活躍されておりますが、さらに「県本部例会」「撮影会」「写真教室」につきましてもご参加、ご協力をお願いいたします。また、第31回埼玉県写真サロンの事業を進めていますが、素晴らしい写真展を継続する原動力として、委員・会員の更なるご協力をお願いいたします。6月28日(土)が応募受付、翌29日(日)が熊切圭介(写真家)・戸井田武彦(総本部理事)・芳賀健二(ニコンの)3氏による審査が行われ、写真展は、8月5日(火)から8月10日(日)まで県立近代美術館において開催されます。

全日写連関東本部では委員長の改選があり、これまでの伊藤康雄委員長が退任、新たに谷田川勝喜委員長が就任されたとの報告がありました。

春の県例会が多数の参加者の中で開催

4月19日、春の県例会が93名という大変多くの参加者の中で開催されました。これは、今年度から「ワンポイントレッスン」コーナーを設け、毎回異なる先生方から“写真向上の極意”をご伝授いただけるという新企画が始まった効果と思えます。初回は林喜一総本部理事による『全日写連コンテスト攻略法』で、多くの審査をご経験的林理事ならではのお話でした。次回は坂巻高次先生による『被写体との対話』お楽しみに。例会も、単・組と共に力作が揃い、これまでも増して熱い討議が交わされ、時間が足りなくなる程の盛況でした。

同日、年度表彰式も行われ、訂正も含め再度お伝えします。

- 単写真の部 第1位 服部 清次 第2位 新井 博
第3位 小林 伸一 第4位 岡崎 実
第5位 佐々木文世
- 組写真の部 第1位 島津 典祐 同1位 田村真由美
第3位 服部 清次 第4位 小林 進
第5位 宮川 綾子

今年度も数多くの素晴らしい作品をお見せください。

(県例会の詳細は県HPで詳しく見ることが出来ます)

埼玉の女性陣がサクラソウに大変身

6月号のフォトアサヒの表紙を見てびっくり、なんという世界!

写真家の浅田政志さんを招き、4月20日、さいたま総局にて女性支部が中心となりワークショップを開催しました。浅田さんは「浅田家」という写真集で木村伊兵衛賞を受賞した作家です。午前には自作品のスライドを用い、撮影時の挿話や家族写真の大切さのお話を伺い、午後は近くの公園まで移動、当日参加した全員がサクラソウや昆虫に変身、浅田さんが桜の木の上から撮影するという、大記念写真撮影となりました。

“写真が趣味”と言っても、以外と家族にはレンズが向かないもの。今回のイベントで、改めて家族写真の大切さを実感した方も多かったのではないのでしょうか。もう一度表紙写真を見て、誰がどこにいるのか、顔見知りの人は何人いますか?。記念写真もご自身の感性で、自由に楽しくチャレンジを!

(朝日新聞4/22(火)、フォトアサヒ6月号P30、県HPに掲載)

関東本部総会で新たに委員と副委員が委嘱される

5月20日(火)、朝日新聞東京本社で関東本部総会が実施され、埼玉県本部の次の方々が正式に委嘱されました。

氏名	新	旧
中澤 博	関東本部委員	関東本部副委員
小林 進	関東本部副委員	県本部委員
佐々木文世	関東本部副委員	県本部委員
山下 智子	関東本部副委員	県本部委員

これから埼玉県本部の発展に大いに活躍ください。また、原田守雄顧問と笠原将常任委員が関東本部委員を退任されました。これまでのご尽力に心より感謝いたしますと共に今後も変わらぬご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

川越支部が支部30周年記念誌を発刊

県本部内で最大会員数を誇る川越支部(中澤博支部長・会員63名)が創立30周年を迎えたのを機に、記念誌「30年の歩み」を発刊しました。カラー写真を多用した32ページの大作です。ページをめくると、これまで30年の歩み、支部写真展、また多くの方が未だ記憶に新しい「中井誠也講演会」の記念事業、さらには会員の作品集「思い出の一枚」と大変盛り沢山の労作です。支部では入会用としても役立てているとのことで大変うらやましい限りです。これからの支部の記念誌の作成をお考えの支部にはとても良いお手本になるでしょう。この記念誌を確認したい方は、中澤支部長にご連絡を。

古怒田常任委員が「モノクロ」を熟筆

フォトアサヒ4月号より、県本部常任委員の古怒田潔さんが「はじめてのモノクロ写真」を熟筆されました。3回に及び内容は表題の「モノクロ」ですが、それに特定せず、写真本来の基礎から応用まで学べる大変価値の高い内容となっております。今一度読み返し、イメージ性の高いといわれる「モノクロ」写真に挑戦してみたいかでしょうか? 陰影だけで構成された映像に新たな発見があるかもしれません。また、佐藤副委員長の“自分流”も引き続き熟筆中です。多重露出と合成によって、夢とロマンある写真を作りたいものですね。